

日野市地域公共交通総合連携計画(案)パブリックコメントについて

「日野市地域公共交通総合連携計画」の策定にあたり、計画の素案についてパブリックコメントを実施しました。その結果については下記のとおりとなりました。

■縦覧期間

平成 30 年 12 月 1 日（土）～平成 31 年 1 月 9 日（水）

■縦覧場所

都市計画課、七生支所、豊田駅連絡所、市内各図書館、市ホームページ

■周知方法

- ・市の広報紙である「広報ひの」12 月 1 日号にパブリックコメント実施の旨を掲載。
- ・市ホームページに平成 30 年 12 月 1 日（土）～平成 31 年 1 月 9 日（水）の期間、電子データを掲載。

■テーマ別意見数

- ・意見表明者数 7 名
- ・意見総数 12 件

No.	テーマ	意見数
1	市立病院直通便の復活について（要望含む）	4
2	ミニバス路線変更・ダイヤ変更について	3
3	乗車率調査結果について	2
4	実施スケジュールについて	2
5	利用促進に向けた取り組みについて	1
	合計	12

日野市地域公共交通総合連携計画(案)に対するパブリックコメントの回答

No.	ページ	ご意見の内容	市の考え方(案)	計画への反映
1	55	【市立病院直通便の復活について】 ・平山循環路線、旭ヶ丘循環路線について、市立病院を経由するようにすること。 ・上記以外の路線も、工夫して市立病院を経由するよう路線を見直すこと。前には通っていたが、通らなくなった路線は復活すること。	本計画は平成21年3月に策定した「日野市地域公共交通総合連携計画」の基本方針を踏襲し、地域公共交通の現状・問題点、課題の整理を踏まえ、計画を策定するものです。その基本方針に基づいて平成22年に再編を行い、旭ヶ丘循環路線、平山循環路線の市役所・市立病院への直行便を廃止し、ラウンドダイヤ化、増便をした経緯があります。しかし再編によって利便性が向上したとの意見がある一方、「市役所・市立病院直通便の復活」に関する要望は多く受けております。そのためP55に記載のとおり、アンケート調査を通じて利用者の意向を把握し利用者の利便性を第一に考え検討します。	市の考え方は先の通りであり、ご意見と受け止め、計画(案)の変更等はいりません。
2	55	【ミニバス路線変更・ダイヤ変更について】 平山循環路線との相互乗り入れはいつまで続くのか。発着を豊田駅南口に移し切り離してくだされば、改編が楽になるのでは。	平山循環路線は市内路線及び南平路線との乗継制度を設けている関係で豊田駅北口発着にしておりますが、南口ロータリーは現在、土地区画整理事業中で暫定形であり、物理的にバスの乗り入れができません。南口ロータリー完成時には平山循環路線を含め北口発着の停留所を南口に移設することを検討しております。	市の考え方は先の通りであり、ご意見と受け止め、計画(案)の変更等はいりません。
	55	【ミニバス路線変更・ダイヤ変更について】 高幡不動と豊田を結んでいるのはやたら入り組んだ、時間も料金もかかる無計画なものです。 豊田南口から高幡不動に行くバス(川辺堀之内)はわずか15分で結んでいますが、わかりにくい上に本数も少なく、時間的にも早仕舞いです。	ミニバスは沿線の需要が少ないことや道路幅員が狭いことなどにより、民間事業者が大型車両で大量輸送を行い利用者からの運賃収入で運行経費を賄い運行することが困難な地域への対応策として運行しており、交通空白地域の解消や公共施設への移動手段の確保、高齢者など交通弱者の外出意欲の確保などを目的としています。そのため入り組んだ経路になっており、最短ルートで目的地まで行くように計画されていないことはご理解ください。 また本数が少なく最終便の時間が早いことについては、利用者数や収支率の基準を設定し、その基準を満たす形で運行本数を設定していきたいと考えております。	市の考え方は先の通りであり、ご意見と受け止め、計画(案)の変更等はいりません。

No.	ページ	ご意見の内容	市の考え方(案)	計画への反映
3	40	【乗車率の調査結果について】 ・旭ヶ丘循環路線について、日々利用している実感では、便によっては70%～80%程度の乗車率がある。過去に独自で調査した際は30人前後の乗車率があった時間帯があった。雨天時などは100%に近いと思われる。 ・最大乗車定員は座ってではなく、立った人も含めた定員とのことだが、高齢者が多く、立ったまま乗車することは危険ではないか。雨天の日は傘を持たざるを得ないのでなお危険である。	市で行ったOD調査は晴れの日に行っており、天候条件などで乗車率が左右されることはありますが、収支面も含めて考慮すると、現段階では乗車率が70%を超える区間が複数便存在する経路でないと増便対応は難しいと判断致しました。今回の計画では70%を1つの基準としていますが、今後の利用状況や財政状況によっては70%に満たなくとも柔軟に増便等の対応を検討していきたいと考えております。 ご指摘の通り、高齢者が立ったまま乗車することは危険ですので、吊り革を使用する旨など乗務員からお願いしているところであります。乗車率の算出に立席を含むことは一般的なことであるためご理解ください。	市の考え方は先の通りであり、ご意見と受け止め、計画(案)の変更等はいりません。
	40	【乗車率の調査結果について】 ・アンケートやOD調査で把握できているとしても、調査時点のものであり今後の(5年後までの)ニーズを示すものではないと思われる。特にOD調査の結果は時期の経過で変化していくことが考えられる。乗車率70%を見直し基準とする場合は柔軟な対応をお願いしたい。	ご指摘の通り、現時点と5年後ではOD調査結果やニーズは変化していくことが考えられます。市民からの意見や要望を参考にし、ニーズに合った形で柔軟に対応していきたいと考えております。	市の考え方は先の通りであり、ご意見と受け止め、計画(案)の変更等はいりません。
	63	【計画の実施スケジュールについて】 ・旭ヶ丘循環路線の市立病院直通の要望を実施スケジュールに取り入れていただきたい。	P55に記載の通り、市立病院直通便についてはアンケート調査を行い実施の可否を検討いたします。また実施スケジュールについては「1-1ミニバス運行経路変更及びダイヤ改正」に含まれており、2019年度から検討を行い準備が整い次第実施していきます。	市の考え方は先の通りであり、ご意見と受け止め、計画(案)の変更等はいりません。

No.	ページ	ご意見の内容	市の考え方(案)	計画への反映
4	63	【計画の実施スケジュールについて】 ・実施スケジュールが5年(その後5年がPDCA)となっているが現状の改善も考慮したみなおしであるなら2～3年程度に短縮を希望する。改善を期待する高齢者にとって5年のスパンはあまりにも長すぎる。また、基本計画とはいえ直近5年間の進め方の記述が曖昧過ぎる。“順次実施”とあるので当然計画的に実施されると解釈できるが、取り組む個別具体的なスケジュールを何時どのような形で掲示されるのかについてコメントして頂くと良いと思う。 ・実施主体の中に「地域住民等」が入っていないが、見直しであるなら参加した方が良いと思う。	運行事業者との調整及び財源の確保等が必要であり、段階的に計画を実施していくため、計画期間は10年とし、5年間で事業を実施し、その後5年間はPDCAサイクルに基づき事業の進行管理を行います。 経路変更、増便、市立病院直通便の復活等についてはP55に記載の通り事業を計画しており、個別具体的なスケジュールに関しては運行収支や乗車率等の状況を勘案しながら計画し、関係機関との調整や財源の確保が整い実施が明確なものから順次公表しようと考えております。 実施主体者については、経路変更、ダイヤ改正等について地域住民の意見を伺うこともありますが、交通空白地域対策スキームを運用する際の地域住民との関わり方とは大きく異なるためこのような記載にしております。	市の考え方は先の通りであり、ご意見と受け止め、計画(案)の変更等はいりません。
5	60	【利用促進に向けた取り組みについて】 ・路線バス及びミニバスの各停留所に、市立病院への行き方を、大きくわかりやすく掲示する。乗り継ぎが必要な場合はその停留所を示す。市内のどこからでも市立病院に行きやすいようにすることが必要。患者から「バス路線が分りにくい」「行きにくい」との声が寄せられているとのこと。通院できることが知られてくれば利用者は徐々に増えると思う。	P60に記載の通り、現在はミニバスに限定したマップを配布していますが、今後は丘陵地ワゴンタクシーや一般路線バス、タクシー事業者の情報等も含む「公共交通マップ」を作成し配布することを計画しています。その中でバスの利用方法・路線図・乗り継ぎ等に関する様々な情報提供していきたいと考えております。	市の考え方は先の通りであり、ご意見と受け止め、計画(案)の変更等はいりません。